

国際ロータリー第2780地区

横須賀北ロータリークラブ週報



2023～2024年度
例会日 毎週火曜日 12:30～13:30
例会場 かながわ信用金庫追浜支店3階 横須賀市追浜本町1-28
 TEL 046 (866) 1515
事務所 鈴木ハイツ2F 横須賀市追浜町3-22-202
 TEL・FAX 046 (866) 1801
 URL: <http://www.yokosukakita-rc.jp/>
 E-mail: info@yokosukakita-rc.jp



会 長 平林 祐樹 副 会 長 前川 永久
 幹 事 武藤 修儀 会 報 委 員 長 佐々木佑倫

2023 - 24 年度第 1 グループ合同例会プログラム

日時 2024年1月12日(金) 12時30分
 場所 横須賀商工会議所 1F 「多目的ホール」

横須賀 RC 第 3456 回/横須賀北 RC 第 2896 回/三浦 RC 第 2938 回/
 横須賀西 RC 第 2508 回/横須賀南西 RC 第 2106 回/横須賀 RAC 第 1177 回例会

11:30 <登録・食事>

司会: ガバナー補佐付幹事 鈴木 孝博

12:30 <点鐘・開会>

ホストクラブ会長 藤村 昌一(横須賀RC)

<斉 唱> 「君が代」

<ゲスト紹介>横須賀青年会議所

理事長 須藤 未喜 様

専務理事 中島 崇裕 様

青少年交換留学生

Chia-Yuan WEN 様

ホストファミリー

平野 弘子 様

米山奨学生

李 世林 様

神奈川歯科大6年 横須賀 RC

呉 亮頭 様

神奈川歯科大5年 三浦 RC

金 贊奎 様

神奈川歯科大5年 横須賀西 RC

<ビジター紹介>

<第1グループガバナー補佐挨拶> ガバナー補佐 岡田 英城

＜各クラブ会長挨拶＞	横須賀ロータリークラブ	会長 藤村 昌一
	横須賀北ロータリークラブ	会長 平林 祐樹
	三浦ロータリークラブ	会長 加藤 隆史
	横須賀西ロータリークラブ	会長 楠山 泰道
	横須賀南西ロータリークラブ	会長 永井不士男
	横須賀ローターアクトクラブ	会長 望月彩弥愛

＜ニコニコ報告＞

- ・本日はお招きいただき有難うございます。講演をさせて頂き大変名誉に存じます。心より感謝を申し上げます。皆様の企業の発展とご健勝をお祈り申し上げます。
- ・横須賀北RC三役 本日の第1グループ合同例会よろしくお願ひいたします。
- ・三浦RC三役 本日は大変お世話になります。どうぞよろしくお願ひします。
- ・横須賀西RC三役 本日はよろしくお願ひ致します。
- ・横須賀南西RC三役 新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願ひします。
- ・横須賀RC三役 第1グループ合同例会よろしくお願ひいたします。

「スピーチ」

＜講演 演＞

テーマ「今年の景気・経済について」

横須賀商工会議所 会頭/神奈川県信用金庫協会 会長

全国信用金庫協会 副会長/関東信用金庫協会 会長

日本商工会議所 監事

平松 廣司 様（横須賀RC 会員）



明けましておめでとうございます。能登半島の大地震で亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈りいたしますとともに、一日も早い復旧・復興を心よりお祈りしているところでございます。

第1グループの合同例会にお招きをいただきまして、本当にありがとうございます。経済金融論が専攻なので、経済と景気についてお話をさせていただきます。

まず、GDPの成長率、株価、円相場、賃金上昇、金融緩和、長期金利、物価についてお話をしていきたいと思ひます。

日本の経済は、1990年頃から93年ぐらいがバブルの崩壊時といわれ、そこから2002年頃までが「失われた10年」といわれています。物価が下落、企業の売上の減少、収益の減少、個人消費の減少が現れていました。特に2008年のリーマンショック、サブプライム問題が非常に大きな影響を伴ひ、日本経済も大きな痛

手を被りました。政府、日銀のデフレ脱却の方策も容易に達成できず今日にきています。要因の一つが日本人独特の節約志向、いわゆるデフレマインドです。低金利で物価が安く、低賃金、そして売上が安定的に計上できている状況であり、それが常態化されていけば安定という認識が今日までの日本の経営者のデフレに対する心理状態です。私はよく 4 点セットと言っています。大企業であるということ、製造業であるということ、輸出業であるということ、背景として円安があることの 4 つです。特に、自動車産業における輸出です。まず、円安効果で何兆円という大きな利益を出す自動車会社が日本にはあります。経済的効果は十分出ており、デフレそのものがあまり前面に出てきていません。ここに来てその莫大な利益をどこに使っていたかということが大きな問題となっています。自己資本の蓄積、内部留保の確保へ利益のほとんどを回しており、日本の全体的な地域のネットワーク、社会的生活の向上に回っていなかったと言われていきます。やっとそのことが問題視されてきました。今後物価は下がらないと認識しています。これから何品目も物価が上がっていく予定であり、その対抗策は一つしかありません。それは、買う人の所得を上げていくことです。政府は賃金アップを各企業にお願いしています。日本の GDP の 70%は個人消費です。個人消費を上げていくには懐勘定を良くしていくという前提があります。つまり、給料を上げていくしかないということです。日本の企業の 99%は中小企業、それから雇用でいえば中小企業に勤めている人が 70%、逆にいうと 1%の企業と 30%を大企業に勤めている人たちの賃金が 7%~8%上がったとして、残りの 99%の中小企業と 70%の中小企業に勤めている人が 1%しか上がらないと、零細企業の方々は「上げられるどころじゃない」と言っておられないでしょう。GDP の成長率は 1 から 1.5%と予想しています。一昨年までは 0.8%、なかなか厳しい経済環境で、昨年が 1.5%の伸び率でした。これから下がっていくだろうと予想しています。24 年は 1.3%、25 年は 1.1%ぐらいの伸び率と予想しています。背景として、中国を中心とした経済のピークを過ぎたこと、アメリカが金利をずっと上げてきたことです。日経の平均株価は 30,000 円から 35,000 円と予想しています。今後も中国経済の弱含みが大きく影響すると思います。EV 車がトヨタを抜いて世界一になりましたが、不動産関連におけるバブル崩壊の値崩れは中国の経済に大きく影響しています。円相場は 135 円から 145 円。円高方向に向かっていると思います。輸出に関わる日本の基幹産業がそれほど大きく伸びなくなるという部分もあり金利も含めて上がっていかないと思います。金融緩和はいつかということですが、賃金がどのくらい上がったかということによる物価上昇 2%が達成できるとなれば、金融緩和すると思います。間違いなく 2%の物価上昇が必達できるであろうという予測が明確に立った段階でも、金融緩和マイナス金利は解除されると思います。これをどう見るかということ、債券の価格が下がっていくということです。長

期金利が上がっていくと、金融機関が持っている国債だとか地方債などの価格が大きく下がるので、金融機関にとっては含み損も大きくなるということで、必ずしもそれが好ましいというものではありません。これは個人的な見解ですが、今年の心掛けは「平常心」、あまり急がない方がいいということです。特に、「ならぬことはならぬ」は会津の掟が「やってはいけないことはやらない方がいい。しなければならぬことは絶対にしておいた方がいい。しなければならぬことを怠ってはいけない」という一年です。昔は、阿吽の呼吸とは「ツーと言えばカー」ということで、詳しい内容を話さなくても話が通じるのが良いとされてきました。これは今では絶対に危険です。「きっとそうなんだろうな…」と思ってするよりも、きちんと打ち合わせをして、理論的かつ技術的に打ち合わせて確実に何かを積み上げていくという接触を行っていかなければならない年だと思います。「利に幅す」は横方向の広がりや度合いを言う時に使います。「富というものは、布帛(ふはく)に一定の幅があるのと同じ。布とは木綿、帛とは絹、その幅は70センチ前後で、これを守らないと不便が生じます」ということです。そこに今の時代が木綿と絹を一緒に合わせた価値あるものだと思います。「疾不必生」とは、「早く走って逃げても必ずしも生きて帰れるものではなく、ゆっくり走っても必ずしも殺されるわけではない。つまり、状況を見ながら何でも急げばいいということではなく、ゆっくりと状況を見て早く走るときは走り、周りを見てゆっくり歩くときはゆっくり歩きなさい。ただし、歩み続けることです」ということです。これは、紀元前500年に中国の斉という国の総理大臣の晏嬰(あんえい)が説いたことで、信用金庫の経営について非常に大事にしているところです。ぜひ皆さんにもこういう感覚を持っていただけるといいと思います。

経済的・経営的に考えても、このような時代だからこそ余裕を持つことが一番です。

「見」「視」「観」「察」は全て「みる」と読みます。見は「目に入ってくるものを見る」こと、視は「見ようとして見る」こと、観は「つぶさに見る」こと、察は「見えないものを見ようとする」ことです。「見」「視」ぐらいまで今年は行きたいと思います。そして、次の対策を一つ見ることができれば、「観」としてつぶさに見る段階にまで、ぜひ行きたいと思っています。

自然災害から始まった今年です。経済的には、金利が上がるとか、物価がいくらだとか、株がいくらだとかで一喜一憂するような問題ではなく、世界経済全体の中の日本として、どう捉えていくかということです。そして、企業の99%が中小企業、勤めている人の70%が中小企業という中での経済と経営、そして暮らしやすい生活をどうやって作っていくかということが、コロナが明けた今年一年に懸っているのではないかと思います。



「出席報告」

(本日) 1月12日

総数	出席対象数	出席数	出席率	メイクアップ°	計	修正出席率
20名	20名	10名	50.00%	3名	13名	65.00%

(前々回) 12月19日

総数	出席対象数	出席数	出席率	メイクアップ°	計	修正出席率
19名	19名	12名	63.16%	3名	15名	78.95%